

保母 敏行
(1994年度 支部長)

関東支部創立 60 周年を迎えたとのこと、大変嬉しいことです。と同時にこれまでの会員の皆様のご苦勞に感謝したいと思います。

さて、近況に関し、2 件の感想を記して執筆の責を果たしたいと思います。

昔は JICST、最近では J D r e a m III とかの文献検索、その中で必要とされる文献抄録の仕事を細々と続けてきました。退職後も社会に役に立つことと、それ以上に老化防止にもと続けています。

私の関わっている雑誌には日本人の論文はあまり出てきませんが、近年はいわゆる発展途上国の人々の論文も増えているように思います。最近の論文を見ると、スペルの間違っただけのものもよく見かけますが、文章を切り貼りしたのか、前後が繋がらないもの、重要な実験条件が書かれていないもの、アブストラクトに本文とは違う結果が書いてあるもの、等々が目に着くことも多く、ずさんな審査で通ってしまうのは困ったことだと思います。

昔、「分析化学」の編集にたずさわったとき、予算削減の話があり、審査料を無しにする提案がありました。その時、審査料を払わなくなると、審査が無責任になるのではないかと懸念し、図書券を 1 枚でも差し上げたらと言うことを主張しました。現在では、外国からたまに私にも審査依頼が来ますが、審査料は無しが常識のようです。

当時「分析化学」の査読者、編集委員の方々が、投稿論文に対して丁寧に疑問点や修正案を書いて返却されていたことを懐かしく思い出される今日この頃です。

次に、私的日中韓の話です。もう 10 何年も前ですが、ガスクロマトグラフィー研究懇談会の運営委員会で、例会の目先を変えて海外でも出来ないだろうかとの話になりました。そこで先ず、近いところと言うことで台湾を訪問することを計画しました。色々調べて、ガスクロマトグラフィー (GC) を研究している人達との交流を実現させました。翌年だったか、台湾から数人が日本を返礼訪問され、盛り上がったことでした。

この成果に味をしめ、中国からの留学生で、博士号を得て中国に帰った人の処に行こうかと言うことになりました。丁度中国に帰国したばかりで、関東支部の新世紀賞を貰った、林 金明さんを通じ、上司であった中国化学院の生態・環境部門の研究センターに居られた単 孝全博士の肝いりで 2002 年 10 月に北京に行きました。合同で GC と環境に関する研究会を開き、日本留学から帰った人達とも交流できました。翌年、韓国にも行こうかと言うことで、ソウルに行き、ここでも歓待されました。そこで、さらにこの会を発展させるためには、分離関連の研究懇談会そのほかの方々にも加わっていただこうかと言うことになり、第一回日中韓シンポジウムと言うことで 2004 年からは大きな会として頂きました。その後、毎年開催地を変え、今日まで続いています。昨年は 11 回目を中国の瀋陽で開催しました。今年は 10 月に韓国の釜山です。

この会は最初、中国の参加者が旅費等の工面が大変であったので、日本分析化学会の基金などから支援をあおいでいましたが、いつの間にか中国の方が豊かなのかなと思うようになってきています。中国の参加者は日本への留学経験者が中心でありましたが、それ以外の参加希望者も増し、今年は 60 人以上が参加するとのこと。日本からの参加者は私も含めて 10 余人とのこと、人口に比例しているなども考えています。

互いに訪問し合うことを通じて相互理解も深まると言うことができると思います。今後の発展を念じつつ、今年も参加し、旧交を温め、楽しんで来ようと思っています。(平成 27 年 9 月 6 日記)